

『ポリオのない世界』

私の義理の父は、大正 15 年生まれで内科医でした。少し右足が不自由で、足を引きずって歩いていました。ポリオの後遺症です。当時では珍しいことではなかったようで、私より上の先輩方は良くご存じだと思います。私は、昭和 27 年生まれです。丁度その頃、昭和 30 年代の母親は、ポリオの恐怖におびえていました。



ポリオが一旦流行すると、その地域の子ども達が次々に侵され麻痺が残るのです。最悪の場合には呼吸筋が侵されて死亡しました。子どもを連れて、その地域を離れる人もいました。

ポリオの生ワクチンが緊急に輸入されたのもその頃です。治験なしの超法規的措置で、それも当時東側のソ連からの緊急輸入でした。日本ではまだポリオワクチンを造る技術がなかったのです。その後、急速に流行は終焉し、今では日本でのポリオ発病はなくなりました。ポリオワクチンの絶大な効果をまざまざと見せつけたのです。ポリオワクチンはポリオを確実に終焉させる素晴らしいワクチンです。

ところが、未だその恩恵にあずかかっていない国があります。アフガニスタン・パキスタン・ナイジェリアです。わずか 3 カ国となりました。かつての蔓延国インドからポリオがなくなったのは 2011 年です。しかし、これら 3 カ国はポリオと闘うための大きな問題があり、活動するのは大変難しい国なのです。一昨年の、世界のポリオ発生件数はたった 19 件でした。しかし、これらの国を無視することが出来ないのです。なぜならば、もしポリオウイルスがどこかに残っていれば、すでに撲滅した国にも再燃する可能性があるからです。それほど、ポリオウイルスの感染力は強いのです。

ポリオウイルスを完全に地球上から根絶することがポリオのない世界を造る唯一の道なのです。だから、内戦でいつ殺されるかも知れない地域に入っていく行かなければならないし、ジャングルの奥地まで入っていく行かなければならないのです。もうあと少しが、大変な事業となっているのです。1988 年 WHO の総会で、ロータリーはポリオを撲滅するための世界的決議を推進し、WHO、CDC とユニセフと共に世界ポリオ撲滅推進運動 (GPEI) を開始しました。

2002 年ビル&メリンダ、ゲイツ財団はロータリーの取り組むポリオ撲滅運動に初めて参加しました。現在までに、国際ロータリー；1 億 5000 万ドル、ゲイツ財団；4 億 5000 万ドル、ナイジェリア；1 億 3460 万ドル、イギリス；1 億 3000 万ドル、カナダ；7, 500 万ドル、EU；6, 140 万ドル、日本；5, 500 万ドルほかを寄付しています。ゲイツ財団と国際ロータリーの寄付が突出しているのが分かります。